

## 04.

中部

## 中部地方会

## 熊田 卓

(大垣市民病院消化器内科)

中部地方会は静岡県、愛知県、岐阜県、富山県、石川県、福井県、三重県の7つの県が含まれ、地方会といえども大変広い地域にわたっている。平成24年1月31日現在の会員数は1645名で、関東甲信越地方会（4928名）、関西地方会（3084名）、九州地方会（1733名）に次いで4番目の規模の地方会である。1991年6月30日に初代の中部地方会の運営委員長である佐久間貞行先生（名古屋大学名誉教授）に第1回中部地方会を開催されて以来、現在までに第32回の開催となっている（平成24年2月5日、三重、津）。2代目の運営委員長は中澤三郎先生（藤田保健衛生大学名誉教授）、3代目は遠藤登喜子先生（国立病院機構名古屋医療センター臨床研究センター高度診断研究部）、4代目は堀口祐爾先生（あいち肝胆膵消化器クリニック）で、私（熊田）が5代目となる。地方会の活性化、ひいては日本超音波医学会の活性化に尽力しているつもりであるが、なかなか目標を達成するには至っていない。

## 地方会運営委員会について

どの地方会でも多くの医師が超音波検査に興味を持たなくなっていることに頭を抱えていることと思われる。実際、中部地方会でも、技師諸君が多く参加し、熱心に発表・討論している姿が目につく。中部地方会の構成職種も工学系16名、医師689名、技師940名と技師の会員の方が多くなってきている。このため、当地方会では医師の運営委員に加えて、オブザーバーとして各県代表の技

師諸君に参加していただき（8名）、広く意見を求めるように努力している。実際に参加していただくことで医師では思いつかない内容の有益な意見も聞かれ、大変良かったと考えている。出席率も医師の運営委員より技師のオブザーバーの方が断然良い。いずれオブザーバーの技師諸君にも地方会会長をお願いし、地方会を引っ張っていただきたいと考えている。

## 地方会開催について

当初は年1回の頻度で開催していたが、1994年からは2年に3回の頻度の開催となって、2012年の9月まで続ける予定である。しかし、最近、演題が十分に集まらず会長が苦勞することが多くなり、他の地方会と同様に1年に1回（秋）に開催することとなった。

最初にも述べたが、中部地方会は広い地域にわたるため開催地によって出席者の数にばらつきがある。名古屋で開催されるときは400名から450名の参加者があるが、静岡、岐阜、三重で行われるときは300人から350人の参加者、そして石川、富山、福井で行われるときは参加者は200人前後に減少してしまう。参加者がばらつかないように、より魅力的な会の運営に努める必要性を痛感している。

## 医師と技師の関係について

運営委員会にもオブザーバーとして技師諸君に

参加していただいていることは先に述べた。大学病院を除く、総合病院を含めた多くの市中病院では、主体となって超音波検査を行っているのは技師諸君であることは周知の事実である。しかし受けた教育からも推定されるように、技師諸君は疾患概念を理解して、鑑別診断を行うことは得意とはいえない。一方、医師も超音波装置を使っての検査に多く従事しているわけではないので技術的には技師諸君には及ばない。したがって、臨床の現場においては両者が協力していくことは極めて重要となる。そのためには、日本超音波医学会の中で、技師諸君が主導権を持てる分野を作る必要があると痛感している。最近、技師諸君が技師の主催する学会にシフトしていく傾向があり、この状態には危惧を感じている。

## 中部地方会としての悲願

中部地方会ではまだ日本超音波医学会学術集会を主催したことがない。会員数としては4番目の

規模であるが、他の地方会はすべて学術集会を行っているのになぜか中部地方会だけが行っていない状態が続いている。中部で学術集会を行おうということで運営委員は協力している。まだ一度も理事を出したことがなかったことに起因しているようである。今回、当地区出身の代議員の廣岡芳樹先生（名古屋大学 光学医療診療部）が理事候補として選出された。近いうちに日本超音波医学会学術集会が中部で開催され、中部地方会の活性化につながることを期待している。

中部地方会は42名の運営委員と8名のオブザーバー（2012年2月5日現在）がまとまって運営していることが誇りである。日本超音波医学会の会員数が漸減している現在、それを食い止めるために地方会の果たす役割は大きく、いろいろな企画を考えて、より魅力的な会とするよう努力したいと考えている。何しろ超音波検査は無くしてはならないものなのだから！